

# スクールカウンセラーの学校システムへのジョイニングの実際

—自らの体験を振り返って—

相模 健人 (教育心理学教室)

**A practical study of school system in joining a school counselor: reflections on the collaborative method of teacher-student counselling based on my experience**

**Takehito SAGAMI**

## I.はじめに

平成7年度より開始された文部省「スクールカウンセラー活用調査研究」委託事業(現在文部科学省「スクールカウンセラー活用研究」委託事業補助)は評価を得ながら、その事業を年々、拡大している。現在のところ、文部科学省としてはすべての中学校にスクールカウンセラーを配置する方針とのことである。

筆者も平成7年より北九州市教育センター学校巡回カウンセラーの仕事を始めたことをきっかけに、スクールカウンセリングの世界に足を踏み込み、臨床心理士資格取得後の平成10年度より断続的にスクールカウンセラーの仕事を続けている。今年で10年目に入り、それなりの経験と実績を積んでいると考えている。

臨床心理士の資格を持つ者にとって、スクールカウンセラーは大きな責任を伴う仕事のひとつといってよいだろう。しかし、スクールカウンセラーが学校に赴任したからといって、よほど緊急性が高い案件を除けば、すぐに相談が舞い込む訳でも学校に馴染む訳でもない。スクールカウンセラー側から学校に積極的に働きかけていかなければ、勤務時間中ずっと相談室に閉じこもってしまう、ということにもなりかねない。実際、スクールカウンセラーの仕事を始めたばかりの臨床心理士からそういった話を耳にすることも多い。

スクールカウンセラーが学校に馴染み、児童生徒、保護者、教師に活用していただけるようになるには、スクールカウンセラーが学校システムに対して、ジョイニングしていくことが必要である。

ここで学校システムとは相模(2001)<sup>(2)</sup>によると「児童生徒、教職員、保護者、地域などの関係の総体」と定義される。同じく、ジョイニングは家族療法の技法の一つであり、野末(1999)<sup>(1)</sup>によると「機能不全にある家族を再構造化し、治療目標を達成するために、治療者が家族システム内のメンバーに仲間入りをし、家族と一緒に治療システムを形成する手段」と定義されている。その際、伴走、調節、模倣の3つの技法がある。同じく野末(1999)によれば、伴走は「治療者が、家族に今までどおりにコミュニケーションを続けるよう支持し、その流れに治療者がついていくこと」、調節は「治療者自身の言動を家族の交流に適合させること」、模倣は「治療者は、家族の言語的・非言語的側面を観察し、ことばづかい、比喩的な表現、感情の表現、仕草などを、意識的・無意識的に模倣すること」とされている。

家族を学校に置き換えて考えれば、スクールカウンセラーにはこのような学校システムにジョイニングすることが求められていると考える。そこで、本稿では筆者のスクールカウンセラーとしての経験を振り返り、スクールカウンセラーが学校システムにジョイニングする際の具体的な手法について述べることにする。前述したジョイニングの伴走、調節、模倣の各側面から述べていきたい。

なお、以下に述べる手法については、すべて筆者が開発したというのではなく、各種研修会やスクールカウンセラーをしている他の臨床心理士の意見を参考にしながら、筆者が実践していることを明記しておく。また、すべての学校で以下に述べる手法を行っているという訳

でもなく、学校の事情に合わせながら、臨機応変に行っている。

## Ⅱ. 伴 走

スクールカウンセラー導入にあたっては、学校システムの把握が重要となる。学校の置かれた地域風土や教員組織、保護者との関係により、学校の雰囲気は大きく変わってくる。

スクールカウンセラー赴任時には、まず学校長と会い、スクールカウンセラーの今後の方針について話し合うことになる。学校長は学校の最重要責任者であり、学校と外の世界との「窓口」の役割を果たしている。初日はまだ訪問者に過ぎないスクールカウンセラーに対して、学校長は最初にジョイニングすべき相手なのである。学校長がいかなる教育理念を持って、学校経営を行っているか、そして、その中でスクールカウンセラーをどのように位置付けているかについてのお考えを伺わせていただく。これは学校側のスクールカウンセラーに対するニーズを確認することにもつながる。

続いて、教頭にも同じようにお話を伺う。学校長の考えがどのように教頭に理解され、学校経営に結びついているかを伺うこととなる。教員組織は原則としてトップダウンの組織であり、校長→教頭→各種主任→各教員といった順番に情報は流れる。校長と教頭がいかにパートナーシップを築いているかを把握することが、学校システムを理解することにつながると考える。

その後は生徒指導主事、養護教諭、そしてスクールカウンセラー担当教諭に話を伺う。筆者の経験では教頭、生徒指導主事、養護教諭がスクールカウンセラー担当教諭を兼ねていることが多かった。この段階になると全児童生徒の名簿を頂き、それを見ながら、各教諭が気になっている子どもについて話を伺う。興味深いのは生徒指導主事と養護教諭の「気になる子ども」が違っていることである。これは役割上の相違であるが、生徒指導主事は生徒指導上、問題と考えられる子どもを上げ、養護教諭は保健室に来る気になる子どもを上げる。どちらもスクールカウンセラーにとっては貴重な情報である。むろん、この段階でスクールカウンセラーがあまり意見を挟むことはない。よほどの例外を除いて、この段階では学校シ

ステムを把握することが重要である。

続いて、全学級担任と合わせて下さるよう、スクールカウンセラー担当教諭にお願いし、随時、面接を行っていく。5分でも構わない。各学級担任にそれぞれのクラスの雰囲気、気になる子どもなどを伺っていく。そのままコンサルテーションに移行することもあれば、子ども、保護者にカウンセリングを勧めるようお願いすることもありうる。

このような伴走を中心としたジョイニングを行い、学校システムの中の教員組織について把握していく。赴任した学校の教員組織に合わせながら、スクールカウンセラーが活動する枠組みが決まっていく。

## Ⅲ. 調 節

教員組織を把握したら、次は児童生徒にスクールカウンセラーの存在を知ってもらうことが重要となる。スクールカウンセラーといっても、子どもたちには何をやる人なのか実際には分からない。カウンセラーという人を初めて見る子どもがほとんどなのだ。また、非常勤という勤務形態からその存在自体さえ知られない危険性さえある。子どもたちにはまず「スクールカウンセラーという人が学校に来ているらしい」という認識を持ってもらう必要がある。いわばスクールカウンセラーのプロモーション活動である。

具体的には朝会などの全校児童生徒の前でのお披露目を含めたあいさつに始まる。また、保健室、職員室など、子どもの集まる場所に子どもと話しに行く必要があるであろう。後述するが、各クラスにスクールカウンセラーが給食も食べに行く。相談室も昼休みなどは可能な限り、開放する。

特に保健室では心身の不調を訴える子どもの中には、カウンセリングを必要とする者もあり、子どもと雑談をしている内に相談につながることもある。そこまでいかなくとも、単に「話してスッキリした」ということでも充分であろう。今度はその子どもが他の困っている友達を連れて、スクールカウンセラーのところへやってくる。これが繰り返されていけば、段々と子どもたちの中に「スクールカウンセラーという人は悩みを聞いてくれるらしい」という理解が広がることになる。こうしてスク

ールカウンセラーの存在をゆっくりと子どもたちに知ってもらおうよう働きかけていく。

保護者、教員には「スクールカウンセラーにはこんなことができます」といったプリントを配布して、広く相談を求めていく(資料1, 2参照)。

教員に関しては、ほとんどの職員室には自然に「たまり場」が出来上がる。その場に入内りすることが重要である。その中で公には少し話しにくい気になる子や、問題行動の話が出てきて、相談につながりやすいことがある。以前は職員室の一角に喫煙所があり、そこが「たまり場」として機能していたのだが、近年は廃止されて、いたしかたないことではあるが寂しい限りである。

## IV. 模 倣

続いて、模倣の面からスクールカウンセラーの学校システムのジョイニングについて考えたい。学校には多数の有形無形のルールが存在する。それを模倣しながら、ジョイニングを行うわけである。

例えば学校には「知らない人であっても学校内ではあいさつをする」といったルールが存在し、指導が行われている。たとえ学校外の見も知らない人間であっても形式上、子どもたちはあいさつをしなければならない。スクールカウンセラーも最初はほとんどの子どもは「知らない学校外の人間」に近い。このルールを模倣しながら、

### 資料1 スクールカウンセラーが教職員に配布するプリントの例

教職員の方々へ

平成〇年〇月〇日

#### スクールカウンセラーはこんなことが出来ます

A中学校スクールカウンセラー  
相模健人

文部科学省の定めたスクールカウンセラーの職務内容としては、①児童生徒へのカウンセリング、②教職員および保護者に対する助言・援助、③児童生徒のカウンセリング等に関する情報収集・提供、④その他児童生徒のカウンセリング等に関し各学校において適当と認められるもの、 となっておりますが、私の今までの経験ではこんなことをやっています。

教職員の方々と

- クラスの気になる児童生徒の対応について話をする
- 担任の先生と保護者の方との合同あるいは並行面接
- 生徒指導上の問題について
- 学校内の目立った問題は起こしてないが、気になる児童生徒について
- 転校生のケア。
- 生徒、保護者をいかにして相談を受けさせたらよいか。

児童生徒のみなさんと

- 相談室登校児童と遊びを通して関わる。
- 授業をエスケイプした生徒に話を聞く。
- 先生方が気になる児童生徒に声をかけてカウンセリングする(もちろん他の児童生徒に知られないように配慮する)。
- 休憩時間に児童生徒と遊びながら関わる。
- クラスの児童生徒に順番に5分間ずつ話を聞いていく。

保護者の方々と

- 子どもの問題についてカウンセリング
- 子育てについて
- 担任の先生と保護者の方と合同面接
- 講演会(下手ですが…)

以上のようなことを今までもやっていますが、それ以外にも言っておきたい限りご期待に応えられるようやっていきたいと思ひます。先生方のアイデア次第でスクールカウンセラーはいくらでも利用できると思ひますので、なにとぞ様々なことにご活用頂きたいと思ひます。よろしくお願ひします。

資料2 スクールカウンセラーが保護者に配布するプリントの例

保護者の皆様へ

平成〇年〇月〇日

スクールカウンセラーのご案内

A中学校スクールカウンセラー 相模健人

すでにご存知かと思いますが、今年度からスクールカウンセラーとして私<sup>さがみたけひと</sup>相模健人が、毎週〇曜日午後にA中学校に来校して相談活動を行っております。  
スクールカウンセラーは児童生徒の相談のほかにも保護者の方々との相談も行っております。これまではこのような相談にのって参りました。

- いじめ、不登校などのお子さんをお持ちの保護者さまに対するご相談
- 子どもの問題についてのご相談
- 子育てについてのご相談(どんなに小さく、小さいに思えることでも結構です)

近年、子どもを育てることに関わる様々な問題が生じているのは保護者の皆様も周知のことと思います。保護者の皆様にもそういった悩みを抱えている方は決して少なくないようにお見受け致します。そんな時、一人だけで問題を抱えてしまうのではなく、誰かにご相談することで別の見方ができるようになり、問題が解決することは有効であると感じます。そのような機会としてスクールカウンセラーをご利用されますよう、よろしくお願ひ致します。

スクールカウンセラーに相談するには、相談室直通の電話(24時間留守番電話対応になります)にお電話ください。電話番号は xxx-xxx-xxx です。

来校日や詳しい情報につきましては、毎月末に発行しております「スクールカウンセラーだより」をご覧ください。

どんな小さいことでも構いませんので、ご相談頂けると幸いです。

スクールカウンセラーは廊下などで頻繁にあいさつをしていく。子どもがあいさつを返してくれたら、一言声をかけてみる。「元気いいね」でも、「休憩時間は何しているの?」でもたわいのない話で構わない。こういったあいさつから会話を繰り返す内に、スクールカウンセラーの存在が学校の中に溶け込んでいくことになる。

次に「副担任や栄養士などの学級担任以外の教員が教室に給食を食べに行く」というルールもある。学級担任以外にも副担任や、栄養士として勤める先生方が給食時間に各クラスで給食時間を共にする。これも模倣して、スクールカウンセラーも給食時間に各クラスを毎週回り、給食を共にしていく。もちろん一言あいさつさせてもらい、スクールカウンセラーの宣伝を行う。こうすると実際のクラスの様子を見ることができ、カウンセリングに関わっている気になる子どもの様子も実際に見ることができる。またクラスには子どもが描いた絵、作文なども貼られており、描画法などの心理アセスメントの心

得があれば、気になる子どもをピックアップすることも可能である。クラスからの帰り際に学級担任にお礼を言う際に、そういった子どもについて話し合うことも可能である。

そして学校では様々な学校だよりが発行されている。これを真似て、スクールカウンセラーも「スクールカウンセラーだより」を発行する。資料3,4にはその実例を載せている。内容は簡単なエッセイとその月の来校スケジュールである。エッセイには筆者の専門とする解決志向セラピーの質問法について書いている。小学校に配る場合はふりがなも振って、小さい子どもでも読めるようにしている。経験では資料4のようなコンプリメント(ほめる、ねぎらうこと)について書くと、保護者、教員からの反応が大きいように思われる。この「スクールカウンセラーだより」については子どもよりは保護者からの反響が多く、「スクールカウンセラーだよりを読んで、相談に来てみようと思った」と話される方も多い。

資料3 スクールカウンセラーだよりの文例 その1(自己紹介)

**A中学校**  
**B小学校・C小学校・D小学校・E小学校**  
**スクールカウンセラーだよりの**

第1号 平成〇年〇月〇日  
発行人 相模健人

**< はじめまして >**

今年からA中学校、B小学校、C小学校、D小学校、E小学校の5校にスクールカウンセラーとして来ることになった相模健人といいます。なんてよむでしょうか？大人でもたいていの人はぼくの名前をただしくはよめません。ただしくは「さがみたけひと」といいます。今年からみなさんのはなしをきいたり、相談にのっていきたくと思っています。毎週〇曜日にA中学校にいますので気軽に声をかけてください。

ぼくはX歳でI市からきています。好きなことは音楽をきくことでながてなことはスポーツです。たべもののすききらいはほとんどありませんが、ヨーグルトだけはたべられません。ふだんはスクールカウンセラーをしています。

どうぞよろしく！

(以下、今月の予定、相談方法などを記載)

資料4 スクールカウンセラーだよりの文例 その2(エッセイ)

**A中学校**  
**B小学校・C小学校・D小学校・E小学校**  
**スクールカウンセラーだよりの**

第〇号 平成〇年〇月〇日  
発行人 相模健人

**<あなたががんばっていること>**

さて、きた人のはなしをぼくはどんなことを考えながら聞いていると思いますか？  
この人の「問題」をさがしている？  
「問題」の原因をさがしている？？  
この人の性格の直さないといけなところをさがしている？？？  
とんでもない！わざわざはなしにきた人にそんなことを聞くななんて、ぼくにはとてもできません。では何を考えてはなしを聞いているのかというと…

(「問題」をもっているにもかかわらず、)  
いままでどうやってやってきたんだろう？  
この人を支えているのは何なんだろう？  
この人が自分でがんばっていることは何だろうか？  
この人はどんなすごい才能をもっているんだろうか？

じつはぼくはきた人をほめてあげたいな、と思っはなしを聞いているのです。だって、きた人は「問題」にずっと苦しんでいるにもかかわらず、それに負けずに(負けるどころか!)なんとかしようと思っ、ぼくのところにはなしにきているのです。すごいことじゃないですか！

そのきもちをなんとか大事にして、できるだけ引き出してあげたい。そんなことを考えながら、ぼくはみなさんのはなしを聞いています。

(以下、今月の予定、相談方法などを記載)

資料5 スクールカウンセラーが講演会に配布するプリントの例

カウンセラーとしての話の聞き方

A中学校 スクールカウンセラー 相模健人

- ① 知らないという姿勢
- ② 言ったことをそのまま繰り返す
- ③ キーワードを繰り返す、質問する
- ④ オープンクエスチョン
- ⑤ コンプリメント(ほめる、ねぎらう)
- ⑥ 資源を見つける

また、段々と学校システムにジョイニングすることが出来てくれば、教員研修や保護者向けの講演会を頼まれることもある。スクールカウンセラーが学校システムにジョイニングできたことの証であろう。講演会のテーマとしては、筆者は「子どもの話の聞き方」といった演題でお話しさせていただくことが多い。これは「子どもの発達のあり方」などをテーマとして話すと、保護者の方は話と自分の子どもとを比べて、かえって不安になってしまう場合もあるので、それよりも普段の親子のコミュニケーションを充実させることに重点を置いた話をする方が効果的ではないかと考えるからである。資料5のようなプリントを配布したり、実践的なワークを行うと好評のようである。

このような活動の中でスクールカウンセラーがジョイニングを行い、学校システムの一部となり、実際的な活動を行うこととなる。詳しい事例の実際については他に譲りたい。

## V. まとめ

以上、簡単ではあるが、筆者の経験からスクールカウンセラーの学校システムへのジョイニングの実際について、具体的手法を述べてきた。スクールカウンセラーは段々と定着していると考えられるが、学校のお役に立てるよう積極的にスクールカウンセラーが働きかける活動が必要と考える。

### 引用文献

- (1)野末武義 (1999) ジョイニング 日本家族心理学会監修 家族心理学事典 金子書房 166.
- (2)相模健人 (2001) スクールカウンセリングにおけるシステムズアプローチを導入した学校システムとの連携に関する研究 兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科学校教育実践学専攻学校教育臨床連合講座博士論文 9.